

金融調節とは何か？

金融調査部 研究員 中村文香

「これでなっとく金融調節」第1回は、中央銀行の目的と金融調節とは何かについて解説します。

中央銀行とは何か？

皆さんは中央銀行にどのようなイメージをお持ちでしょうか。私は小学生の時に、中央銀行は「銀行の銀行」、「政府の銀行」であると習い、日本で支払いに使うお札は「日本銀行券」というのだと知りました。中央銀行の業務として、銀行券の発行や、銀行間の資金のやり取り、年金や国税など、政府と金融機関の間の資金のやり取りなどがあります。さらに近年では、政策運営を行う主体としての中央銀行も広く注目されています。

日本銀行の目的

わが国の中央銀行である日本銀行の役割は様々ですが、最大の目的は「常に安心してお金（日本円）を使えるような環境を維持すること」だと言えます。お金を安心して使える環境であるということは、例えば、偽札がないことや、皆さんが銀行で振り込みをする際に、送金を頼んだ銀行が突如破綻してしまったり、送金を行うシステムが止まったりしないことなどが挙げられるでしょう。偽札が作りにくい「日本銀行券」であれば安心ですし、健全な金融機関がトラブルのないシステムを利用できる環境が整っていることが必要です。

また、お金の価値を安定させるのも日本銀行の大切な役割です。もし、日本円の価値が、急に半分になってしまったらどうなるでしょうか？買おうと思っていたパンは半分しか買えなくなり、旅行先の海外で支払う費用も2倍になってしまいます。モノやサービスの量が変わらないのに、お金の量が増えてしまうと、モノに対するお金の価値が下がってしまいます。同様に、外国のお金の量が変化していないのに、日本円の量が増えてしまうと、外国のお金に対する日本円の価値が下がってしまいます。このようなことが起こらないように、日本銀行は「流通するお金の量」を調節しています。

どうやって調節するのか？

それでは、どうやってお金の量を調節するのでしょうか？経済活動を円滑に行うためには、お金が余っている人から、お金を借りたい人を結びつけることがとても重要ですが、個々人や企業が貸し借りの相手を見つけるのは大変です。日本では、お金の貸し借りの仲立ちを銀行などの金融機関が行っています。個人など、お金が余っている人たちから預金を受け入れて、企業などのお金を必要としている人たちに貸しています。こうしたお金のやり取りは、最終的には金融機関の間のお金のやり取りに結集します。

ある銀行ではお金が余り、別の銀行ではお金が足りない、という状況が起きると、金融機関同士がお金を融通する市場でやり取りが行われます。お金を借りたい金融機関が多い時に、貸せる金融機関が少ないと、お金の取り合いになってしまいます。逆に、借りたい金融機関があまりいないのに、積極的に貸したいと考えている金融機関が多いのであれば、お金が余ってしまい、条件が悪くても貸し出そうとする金融機関が多くなるでしょう。

その市場で、お金の取り合いが激化したり、お金が余り過ぎたりする兆候があれば、日本銀行は市場に参加し、お金の量が足りないようならお金を供給し、多すぎるようなら吸収するという操作を行います。この調節を公開市場操作といいます。英語のオープン・マーケット・オペレーションを略して、「オペ」と呼ばれることが多いようです。日本銀行が行うお金の量の調節を総称して「金融市場調節（金融調節）」といいます。

金融調節は、銀行などの金融機関を安心して利用できるようにし、お金の価値が急変動しないようにするために行われており、「常に安心してお金を使えるような環境を維持する」ための工夫が詰まっています。

第2回以降では、金融調節の基本的な手法を解説し、金融調節が与える影響を考えたいと思います。

以上